



# 私達の島 北方領土

択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は、いまだかつて一度も外国の領土となったことのない日本固有の領土です。

しかし、現在はロシアによって不法に占拠されているため、日本はその返還を求めています。

なぜこのようなことになっているのか、北方領土について学び、北方領土問題をみんなで考えましょう。

00



## 北方領土の地勢



北方領土（北方四島）とは、<sup>えとろふ</sup> 択捉島、<sup>くなしり</sup> 国後島、<sup>しこたん</sup> 色丹島、<sup>はぼまい</sup> 歯舞群島からなる島々のことです。四島を合わせた面積は、5,036.1km<sup>2</sup>で、千葉県や愛知県とほぼ同じ大きさです。

択捉島・・・日本で最も北側に位置している全長204kmの島です。北方四島の中でも最大の島であり、本土4島を除いて日本で一番大きな島でもあります。火山島で温泉も多く、散布山（1,587m）をはじめ、1,000mを超える山も少なくありません。

国後島・・・根室半島と知床半島との間に位置している全長122kmの細長い島で、沖縄本島よりも大きい島です。野付半島からはわずか16km、羅臼町からは約25kmしか離れておらず、典型的な火山島であり、北方領土の中で最高峰の<sup>ぢぢやち</sup> 爺爺岳（1,822m）があります。材木岩やろうそく岩などの奇岩があり、温泉も10数カ所あります。

色丹島・・・根室半島のはるか東に位置しており、島の大きさは徳之島（鹿児島県奄美群島の1つ）とほぼ同じです。斜古丹山（413m）を中心に島全体が比較的なだらかな山地・丘陵になっており、島全体が高山植物などの緑で覆われ、深い入り江がとても美しい島です。

歯舞群島・・・根室半島の東端、納沙布岬の沖合に点在する島で、<sup>すいしやう</sup> 水晶島、<sup>あきゆり</sup> 秋勇留島、<sup>ゆり</sup> 勇留島、<sup>しばつ</sup> 志発島、<sup>たらく</sup> 多楽島のほか、<sup>かいがら</sup> 貝殻島や<sup>もえもしり</sup> 萌茂尻島などの島々から成っています。納沙布岬から貝殻島まではわずか3.7kmしか離れておらず、島を合わせた大きさは小笠原諸島とほぼ同じです。各島は昆布や魚の宝庫となっており、現在はロシアとの協定で6月から9月まで貝殻島周辺でのみ昆布漁が行われています。

色丹島と歯舞群島は、大昔、根室半島と地続きでしたが、土地の陥没などによって離れ島になったといわれています。

《面積及び距離》

島名	面積 (km <sup>2</sup> )	距離 (km)
択捉島	3,184.0	144.5
国後島	1,498.8	16.0
色丹島	253.3	73.3
歯舞群島（貝殻島）	—	3.7
歯舞群島（水晶島）	13.7	7.0
歯舞群島（秋勇留島）	2.7	13.7
歯舞群島（勇留島）	10.6	16.6
歯舞群島（志発島）	59.5	25.5
歯舞群島（多楽島）	11.7	45.5
計	5,036.1	—



羅臼国後展望塔から見た国後島

羅臼町からは約25kmの距離にある国後島を間近に見ることが出来ます。

※平成24年国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」等による

※択捉島、国後島、色丹島は周辺の小島を含めた面積、歯舞群島の上記以外の小島は計のみに計上

※北方領土の各島までの距離は、根室半島納沙布岬からのもので、国後島の野付半島からのもの（納沙布岬～国後島37.4km）

# 北方領土の基礎知識

## ◆気候

北方領土の東側は太平洋、西側はオホーツク海にそれぞれ面しています。この海域は海流があり、季節によって、気候に大きな影響を与えます。

気温は、海洋気象の影響を受けて寒暖の差が緩慢で、冬でも寒さはそう厳しくありません。冬の平均気温は、零下5度か6度くらいで、根室地方とほぼ同じです。

一番暑い8月の月平均気温は摂氏16度くらいと高くはありません。これは、海霧(ガス)のため日照時間が少なく、そのうえ海から冷たい風が吹いてくるからです。

択捉島紗那測候所の観測記録(昭和5~7年)によれば、年平均気温は摂氏3度から5度で、月平均最低気温が零下5度以下の月は12月から3月までの4ヵ月、月平均最高気温が摂氏10度以上の月は6月から10月までの5ヵ月となっています。



択捉島の散布山



国後島の爺爺岳

## ◆動植物

北方領土の島々は、北海道本島の動植物の分布と全く同じで、択捉島の北に位置するウルップ島より北の千島列島のものとは違いがあります。

宮部金吾博士(1860年~1951年：北海道大学名誉教授)は、植物分布の状況を調べ、ウルップ島より北の島々と択捉島より南の島々に分布する植物の違いを認め、択捉海峡に線を引いてその違いを表しました。

北海道本島でおなじみのエゾマツ、トドマツは択捉島にまで分布していますが、ウルップ島より北にはなく、動物も北海道本島と国後島とは全く同じ状態にあり、一部は択捉島にも及んでいて大体において北海道と同じです。

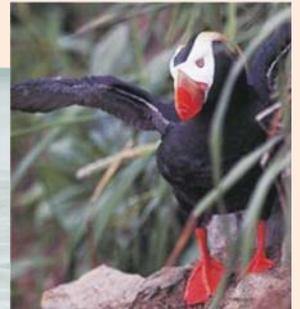
オオワシやシマフクロウ、エトピリカなどの珍しい鳥類、クジラやシャチ、イルカなどの大型のほ乳類のほか、ラッコやアザラシなどの動物、陸上でもヒグマやクロテンなどの珍しいほ乳類がいます。ロシア側では、四島の広い範囲で「自然保護区」を設定していますが、密漁などで貴重な自然が壊されているという情報もあります。



秋勇留島の税庫海岸



アザラシ



エトピリカ

## ◆北方領土の行政と人口

戦前の北方領土では、択捉島に留別村<sup>るべつ</sup>、紗那村<sup>しゃな</sup>、薬取村<sup>しべとろ</sup>、国後島に泊村<sup>とまり</sup>、留夜別村<sup>るやべつ</sup>、色丹島に色丹村が置かれ、歯舞群島は旧歯舞村(現：根室市)の行政区域に属していました。

終戦時、北方領土には17,291人の日本人が暮らしており、多くの人が漁業や水産加工業に従事していました。

現在、日本人は1人も住んでいません。

※日本人の人口は公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟調べ  
※ロシア人の人口は連邦国家統計庁サハリン州局編資料による統計上歯舞群島に居住者はいない

島名	日本人		ロシア人
	1945年8月15日現在		2011年
	世帯数	人口(人)	人口(人)
択捉島	739	3,608	7,335
国後島	1,327	7,364	6,712
色丹島	206	1,038	2,802
歯舞群島	852	5,281	0
合計	3,124	17,291	16,849

## ◆北方領土の景勝地

択捉島の散布山や国後島の爺爺岳のほか、様々な景勝地が四島の至るところに点在しています。



択捉島：萌消岩



国後島：材木岩



色丹島：キリトウシ湾



歯舞群島多楽島：多楽石

# 北方領土の歴史

## ◆北方領土の発見

北方領土が日本に知られるようになったのは、今から300年以上昔の江戸時代のことで、当時はアイヌの人々が島に住んでいました。

1644年（正保元年）、江戸幕府は「正保御国絵図」を編さんするため、諸藩に「国絵図」の提出を命じましたが、このとき松前藩が幕府に提出した地図には、「クナシリ(国後)」島や「エトホロ(択捉)」島など39の島々が書かれています。



正保御国絵図



「大日本恵登呂府」の標柱

1721年（享保6年）にロシア人が作成した地図には北方領土の島々が日本の島々と書かれていました。

1700年代の後半になると、幕府は自ら北方領土の経営に本格的に取り組むようになり、択捉島、国後島を中心に最上徳内、近藤重蔵、高田屋嘉兵衛などの日本人が活躍しました。

1798年（寛政10年）には、近藤重蔵らが択捉島に「大日本恵登呂府」と書いた標柱を建て、日本の領土であることを示しました。

このような事を踏まえて、1855年（安政元年）、平和的な話し合いの結果、「日魯通好条約」により日本とロシアの間にはじめて国境が決められました。



最上徳内



近藤重蔵



高田屋嘉兵衛

## ✓チェック! 国際法から見た北方領土の歴史

### ① 1855年 日魯通好条約



日露両国で調印した「日魯通好条約」は、国境を択捉島とウルップ島の間と決めました。樺太については、混住の地とされました。

### ② 1875年 樺太千島交換条約



混住の地であった樺太をロシア領とし、ロシア領であった千島列島を日本の領土としました。

なお、譲り受けた千島列島の中には、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島は含まれていません。

### ③ 1905年 ポーツマス条約



日露戦争の結果、北緯50度以南の南樺太が日本の領土となりました。

### ④ 1951年 サンフランシスコ平和条約



日本は南樺太及び千島列島の権利を放棄しました。しかし、放棄した千島列島には択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は含まれていません。

## ◆ソ連軍による北方領土の占領



第二次世界大戦末期の1945年（昭和20年）8月9日、当時有効だった日ソ中立条約（昭和16年締結）に違反して対日参戦したソ連は、日本がポツダム宣言を受け入れ、無条件降伏した（昭和20年8月15日）後も攻撃を続け、8月28日から9月5日の間に北方四島のすべてを占領しました。

そのため、当時島に住んでいた約17,000人の日本人がソ連の命令で1948年（昭和23年）までに北海道本島へ強制的に引き揚げさせられてしまいました。

### ソ連軍による北方領土の占領の状況



## ✓チェック!

### 「返還を求める理由」

- ① 国際法上、北方領土は一度も外国の領土となることがないこと
- ② ソ連は当時有効だった日ソ中立条約に違反して対日参戦したこと
- ③ ソ連は日本がポツダム宣言受諾後に北方四島を占拠したこと
- ④ 占領後、当時住んでいた元島民を追い出したこと

## 元島民のお話（島の生活と不法占拠の時のお話）

島では、たくさん魚が捕れました。子ども達は海でウニやカニを捕ったり、缶蹴りなどをして遊びました。冬は流水のため定期船が来ないので、12月までに大量の米や味噌などを蓄えて長い冬を乗り越えていました。食料を消費した家庭には分け合ったりして、助け合いながら仲良く暮らしていました。（出身：国後島）



野口繁正さん



高岡唯一さん

1945年（昭和20年）7月14日、根室に空襲が起こり、黒煙が島からも見えました。終戦後、島にソ連軍が来るという噂が立ちました。もしソ連軍が来たら、何をされるか分からなかったため、とても不安な日々が続き、とうとうその日がやってきました。銃を持ったソ連兵が家に土足で上がってきて、家の中や仏壇などをめちゃくちゃにしました。両親はとても悔しい思いをしたことでしょう。

その後、私達家族は、島から釣り船で脱出しました。中には島に残ろうとした人もいましたが、結局全員が島から強制的に退去させられました。（出身：歯舞群島多楽島）

## 北方領土問題をめぐる日ソ・日露間の交渉の経緯

### 日本の基本的立場

北方領土が日本に返還されるべき領土であることは、歴史的に見ても明らかです。日本政府は「我が国固有の領土である北方領土問題を解決して平和条約を結ぶ」という考えに基づいてロシア政府との交渉を続けています。

また、北方領土問題の解決に向け、日本政府は「北方領土の日本への帰属が確認されるのであれば、実際の返還の時期及び態様については、柔軟に対応する」、「北方領土に現在居住しているロシア人住民については、その人権、利益及び希望は、北方領土返還後も十分に尊重する」こととしています。

### 主な外交交渉の経緯

#### 【1956年 日ソ共同宣言】

平和条約締結交渉を続けることとして、国交を回復しました。なお、ソ連は、歯舞群島及び色丹島を平和条約の締結後、日本に引き渡すことに同意しました。

#### 【1993年 東京宣言】

領土問題を北方四島の島名を挙げて、その帰属に関する問題と位置づけました。

#### 【1997年 クラスノヤルスク合意】

東京宣言に基づき、2000年までに平和条約を締結するよう全力を尽くすことで一致しました。

#### 【2001年 イルクーツク声明】

日ソ共同宣言や東京宣言に基づいて四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結すべきことを再確認しました。

#### 【2013年 安倍首相とプーチン大統領による日露首脳会談】

戦後67年を経て日露間で平和条約が存在しないことは異常であるとの認識で一致し、ここ数年停滞していた平和条約交渉を再スタートし、加速化させ、両首脳の間で議論に付すことに合意しました。

# 北方領土の過去と現在の様子

## 教 育

過 去

四島それぞれの島に小学校が建設されており、分校を含めると何と39校もの学校がありました。

子供たちは小学校で勉強した後、家にまっすぐ帰り、すぐにランプの掃除など家の手伝いをしました。

当時は手伝いが当たり前でなんの苦もなかったそうです。



勇留島の国民学校校舎

現 在

教育制度は、小・中・高を一貫とした11年制であり、英語教育が盛んなため、英語を理解する若者がとても多いそうです。

しかし、四島には大学がないため、サハリンや大陸の大学に進学する人も少なくないそうです。



色丹島の小中学校

## 産 業

過 去



択捉島でのマス漁の様子

産業は、漁業中心で、カニやサケなどを捕った後、缶詰などに加工して出荷していました。

また、昆布漁が盛んだった島では、採った昆布を馬車に載せて運んでいました。

米や調味料の生産はなく、根室などから購入していました。

現 在



択捉島の加工場の様子

北方領土の主な産業は、水産加工業で、周辺の海は、タラ、カレイ、カニなどが多く捕れ、河川はサケ・マスの産卵地となっているそうです。

特に択捉島では、大きな水産加工会社があり、最新の設備を取り入れながら水産物の加工を行っているそうです。

## 交 通

過 去

昔の島の交通手段は馬か徒歩が主流で、特に馬は島の生活に欠かせない存在でした。

また、島には「<sup>えきてい</sup>駆通」という施設があり、旅行者などに馬の貸し出しなども行っていたそうです。

各島への移動手段としては定期航路の船舶や個人の船舶を利用し、島までの物資輸送などを行っていました。



国後島の駆通とどさんこ馬

現 在

主な交通手段は車ですが、道路があまり舗装されていなく砂ぼこりが発生することがあります。

しかし、近年はインフラ整備によって、道路や新しい空港などが建設され、島の近代化が進んでいるそうです。

また、各島間の移動は定期船や航空機（サハリン経由）を利用しているそうです。



択捉島の市街地を走るタクシー

## 生 活

過 去



択捉島での海水浴の様子

一般的な家屋は木造の平屋で畳の部屋と仏間ぐらいしか部屋はありませんでした。

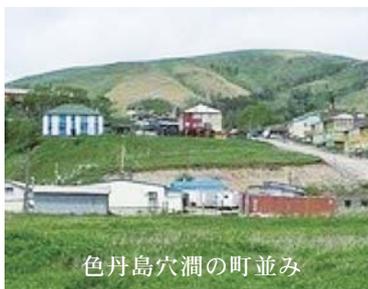
当時の島の子供達との遊びといえば、海で泳いだり、馬と一緒に遊んだり自然の中で遊ぶことが中心でしたが、中でも当時の遊びで大人気だったのが缶蹴りでした。

島民同士は仲が良く、助け合って生活していたようです。

現 在

建物はとてもカラフルで、夜は街灯で街を照らします。島では電力不足による停電がよく起こるそうですが、近年では、火山の熱エネルギーを利用した地熱発電が導入されたため、電力不足が改善しつつあるそうです。

島には、インターネットも接続されているため、子供達でも簡単に活用することができるようです。



色丹島穴澗の町並み

# 北方領土問題の解決に向けた取組

## ◆北方領土返還要求運動

北方領土は、これまでに一度も外国の領土になったことがなく、日本に帰属するべき領土です。しかし、現在ロシアに不法占拠されているこの北方領土問題解決のために、ロシア政府との外交交渉を粘り強く続けていく必要があります。この交渉を後押しする最大の力は、北方領土の返還を求める一致した国民の想いです。

国民一人ひとりが北方領土問題に関心を持ってもらうために、全国各地で様々な取組（北方領土返還要求運動）が行われています。

### 署名活動

国民の意志を直接表明する手段として、北方領土の返還を求める署名活動が全国で行われています。毎年約100万筆の署名が集まり、総署名数は平成25年12月末現在で8,500万筆を超えています。集められた署名は、毎年、国会に請願として提出されています。

知床峠での署名活動の様子（平成24年）



### 北方領土返還運動全国強調月間

毎年8月と2月は「北方領土返還運動全国強調月間」です。期間中には全国で行政機関や返還要求運動関係団体主催による集会・講演会・キャラバン・パネル展などの多彩な行事が開催されています。



## ✓チェック! 「北方領土の日」

北方領土の返還を求める多くの人たちから、返還要求運動を盛り上げるため、「北方領土の日を設けたい」という要望が高まり、1981年（昭和56年）、政府は閣議了解によって2月7日を「北方領土の日」とすることを決定しました。

この2月7日は、1855年（安政元年）日露両国の国境を択捉島とウルップ島との間に定めた「日魯通好条約」が伊豆の下田で平和的に署名された日です。

北海道では、この「北方領土の日」を広く周知し、返還要求運動をさらに高めるためのポスターデザインの募集を行っています。

右のデザインは、第12回（平成25年度）ポスターコンテストの入賞作品です。



## ◆若い世代への啓発

北方領土問題が長期化し、返還要求運動の主要な担い手である元島民の平均年齢が79歳（平成25年12月末現在）を超えて、高齢化が進む中、今後一層この返還要求運動を強化・継続していく上で、若者がこの運動の新たな担い手となっていくことが必要となっています。

### 北方領土青少年洋上セミナー

千島歯舞諸島居住者連盟根室管内青年部連絡協議会では、若者に北方領土返還要求運動の理解を深めてもらうために、船上で北方領土を視察して近さを実感したり、北方領土の歴史や現状の学習会を開催しています。



### 弁論大会・スピーチコンテスト

中学生や高校生が、「北方領土について考えること」をテーマにした、弁論大会やスピーチコンテストが開催されています。内容は、「北方領土問題」、「北方四島の返還実現に向けて」など北方領土に関する様々な問題について独創的な考えをまとめて発表しています。



## 北方領土問題の解決に向けた取組（四島交流事業）

### ✓チェック！「四島交流(ビザなし交流)とは・・・」

1992年（平成4年）から始まった日本国民と北方領土に住むロシア人住民との相互訪問による交流のことで

す。この交流は、旅券（パスポート）、査証（ビザ）なしで外務大臣の発行する身分証明書などにより、特別な枠組みで渡航が認められていることから、「ビザなし交流」と呼ばれています。

日本とロシアの間で北方領土問題が解決するまでの間、日本国民が北方領土を訪れ（訪問事業）、北方領土のロシア人住民が日本を訪問する（受入事業）ことにより、相互理解と友好を深めることを目的としています。

青少年や教育関係者を対象とした訪問事業もあり、中学生・高校生・大学生なども参加することができます。

### ビザなし交流に参加した感想



### ◆訪問事業

色丹島：平成24年8月3日から6日まで：小川、丸山参加

ビザなし交流に参加するまでは、北方領土問題についてあまり知らなかったし、この問題は自分には関係ないと思っていました。島に住んでいるロシア人に怖い印象を持っていたけれど、参加してからは印象ががらっと変わりました。

自分にも参加出来る弁論大会などで、ビザなし交流で学んだり体験したことを発表してもっとみんなに伝えていきたいと思います。（小川）

ビザなし交流に参加する前は、ロシア人はとても怖いというイメージを持っていましたが、島民の方はとても親切で明るく、たくさん話しかけてくれました。また、交流に参加して、ロシア人と日本人の文化の違いが分かり、より北方領土に興味を持つようになりました。これからは、ビザなし交流に参加した経験を生かして、積極的に北方領土の返還要求運動に参加し、北方領土のことを知らない人達にもっと北方領土のことを伝えていきたいです。（丸山）



ホームビジット先での記念撮影（色丹島）

国後島：平成25年9月13日から16日まで：菊池、坂本参加

当初ロシア人は怖いイメージを持っていましたが、実際に島に行ってみるとロシア人はとても優しくかったです。

道がコンクリートだったり家がカラフルだったり当初島に抱いていたイメージとは大分違うなということが第一印象でした。街には野良犬が沢山いましたが、ゴミなどは落ちていなくてとても綺麗で、走っていた車も日本と同じで運転席が右にありましたが、日本と走る車線が逆だったので違和感を感じました。

また、街には日本の文化が一つも無く、ロシアの文化で島は埋め尽くされていて、日本固有の領土にも関わらずもうそこはロシアのようで、「ロシアにいる」という気持ちと「外国」という複雑な思いを抱きました。日本固有の領土だけれど島はロシアに染まっているから、今から日本に返還するのは難しいかもしれないと思いました。

今回の思ったことや考えたことを今後に生かせるように色々な返還要求運動に参加したいと思いました。今後、またビザなし交流に参加する機会があれば是非参加したいです。



学校訪問での集合写真（国後島）

### ◆受入事業

中標津町：平成22年6月18日から22日まで：山田参加

親戚の家でのホームステイに参加しました。最初はロシア人がどんな人たちなのか分かりませんでした。怖いイメージも無かったし、良いイメージでもありませんでした。だけど、一緒にご飯を食べたりしてみると、優しくったり親切だったので、そんな人たちから北方領土を奪うのは可哀想だと思いました。

なので北方領土が返還されたら、ロシアの人達とも一緒に暮らしていければいいなと思います。

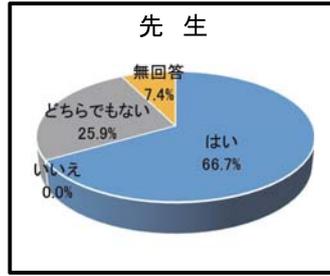
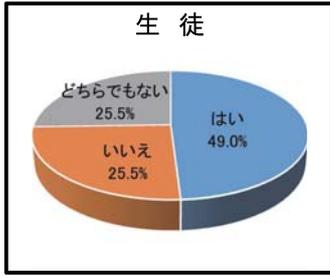


ホームステイ先での食事の様子（中標津町）

## ◆北方領土問題に関するアンケート

羅臼町の中学校の2年生と先生を対象にアンケート調査を行いました。（生徒：51人、先生：27人）

### 1 北方領土を返してほしいですか？



#### 【はい】の理由（抜粋）

生徒：「元々日本の領土だから」、「日本が豊かになると思うから」

先生：「日本固有の領土であり、元島民の方々の故郷であるから」、「経済資源的にも我が国にとって重要であるから」と考えるから」

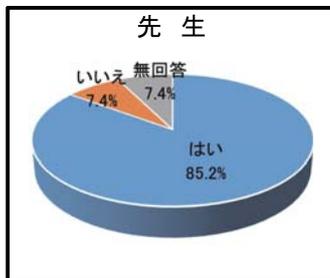
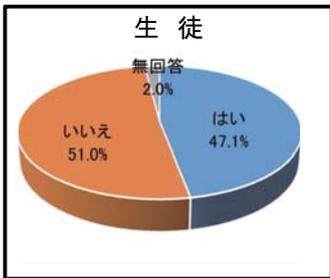
#### 【いいえ】の理由（抜粋）

生徒：「今のままで満足しているから」、「別にどうでも良いから」、「戦争が起こる可能性があるから」

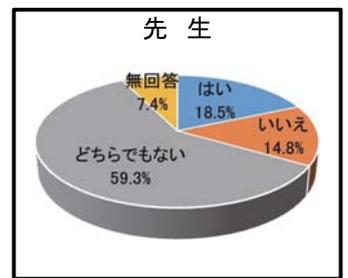
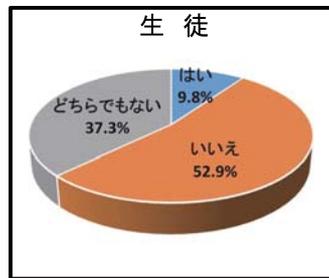
#### 【どちらでもない】の理由（抜粋）

生徒：「今でも日本の領土だから返してほしい気持ちもあるけど、今はロシア人が住んでいるから」、「メリットがよく分からないから」、「興味がないから」、「北方領土が返らなくても生活に支障はないし、返してもらうのに戦争になるのも嫌だから」

### 2 北方領土返還要求運動の取組を知っていますか？



### 3 北方領土返還要求運動に参加してみたいと思いますか？



## ●アンケート結果

北方領土を返してほしいと思っている人や返還要求運動の取組を知っている人は生徒、先生とも多かったですが、一方の返還要求運動に参加したいという人が少なかったのはとても残念です。返還を望むだけではなく、もっと領土問題について勉強をして、関心を持って返還要求運動にも積極的に参加してほしいです。

## 制作した中学生からのメッセージ

- 小川 北方領土問題は自分に関係ないと思わずにもっと興味を持って正しい知識をつけてほしいです。
- 丸山 北方領土のことをどのように思っているかはその人次第だけど、「北方領土を返してほしい」という気持ちを少しでも持ってください。そして、北方領土の返還要求運動にもっと積極的に参加したりして、北方領土についての正しい知識を身につけてください。
- 山田 この教材を読んで北方領土の位置や地名など色々な事を知ってほしいし、興味をもってほしいと思います。自分も最初は何も分からなかったですが、教材を作っているうちに択捉島や国後島、色丹島、歯舞群島などの島々の事が分かったし、ためになりました。皆さんも北方領土返還要求運動に参加してみてください。
- 菊池 北方領土に興味がなくともできるだけ関心を持って、もっと島のことを知ってほしいです。また、北方領土の身近に住んでいる人たちは、なるべく返還要求運動に参加して北方領土が日本のものだと言主張してほしいです。
- 坂本 北方領土に興味を持ち、正しい知識を身につけて、島の名前を漢字で書けるようにし、北方領土の返還要求運動にもっと協力してください。

#### 〈制作・編集者〉

羅臼町立羅臼中学校 2年 小川穂純、丸山弘夏、山田暁  
羅臼町立春松中学校 2年 菊池愛里、坂本菜々花

#### 〈制作協力〉

横澤英三（羅臼町立羅臼小学校 校長）  
野口繁正（千島歯舞諸島居住者連盟羅臼支部 支部長：国後島出身）  
高岡唯一（千島歯舞諸島居住者連盟羅臼支部：歯舞群島多楽島出身）  
城戸千尋（千島歯舞諸島居住者連盟根室管内青年部連絡協議会 理事）  
独立行政法人北方領土問題対策協会（写真提供）  
公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟（写真提供）  
公益社団法人北方領土復帰期成同盟北方四島交流北海道推進委員会（写真提供）

#### 〈発行者・問い合わせ先〉

北海道北方領土対策根室地域本部北方領土対策室  
〒087-8588 根室市常盤町3-28

TEL(0153)24-5592 FAX(0153)23-5336

#### 【ホームページアドレス】

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrn/>



〈発行日〉平成26年2月